

## 19 筋ジス患児(者)に適応する昇降式移動装置

国立療養所八雲病院

野口 房子      湯浅柄 美子  
佐藤 リサ子

職員の腰痛予防および、患児(者)を安全、安楽に運搬するために、昇降式移動装置(アンビユリフト、二葉)を購入し、今回はその4点について改良し成果を得ることができたので報告する。

### 改良点

1. ユニット昇降作動はハンドル操作のものを油圧シリンダー式とし、又、支柱が高いので低くする。
2. ユニット昇降巾が床上7cm～105cmの高さのものを低くし、ゆれを少なくする。
3. ユニットの床面に降した時、キャスター部分にユニットが乗らないようにし、乗降を容易にさせる。
4. ユニットに落下防止のため両側に取りはずし可能な柵をつける。

### 改良後

1. ユニット昇降作動を油圧シリンダー式にしたことにより、簡単に任意の高さに調節しやすくいざる能力があれば、床面、ベットへの移動も容易にでき、動けない患児(者)でも、体位をずらすことにより容易に移動させることもできる。又、支柱も143cmあり、前方が見えにくく患児(者)移動の際不便であったが、43cm低くし、100cmにしたことにより、視界をさまたげることがなくなった。
2. ユニット昇降巾を床面4cm～70cmとしたことにより、ぶれが少なくなり、患児(者)に不安を感じさせず、安定した作動ができるようになった。
3. ユニットの床面に下げた時、坐受けだけが水平となり、背受け、下腿受けの一部が、脚部に乗るため、キャスター部分に幾分傾斜がつくが、乗降には影響はない。
4. ユニットに落下防止の柵をつけたため、より安全に移動できる。又、乗降時柵を下げることにより、スロープとなるので、移動も容易になった。

### 〔考 察〕

昇降式移動の装置(アンビユニット、2葉)は、いざる能力のある患児(者)にとって、床面ベットからの移動も容易にでき、又、重量のある患児(者)、動けない患児(者)でもシートなどを利用して、ずらすことにより患児(者)に負担をかけないで、移動させることができる。このため職員の抱き上げ、抱き下しの回数も幾分軽減されるようになった。しかし、昇降式移動

装置の全長が160cm、巾60cmがあるため、せまい所での使用には扱いにくい欠点があるが、用途に応じて有効に使用してゆきたい。

## 20、Duchenne型筋ジストロフィー症の下肢用夜間 副子の検討 装具歩行患者を中心として

国立療養所八雲病院

藤 島 恵喜蔵      湯浅柄 美 子  
松 原 伊佐美      佐 藤 直 従

D型PMD児の装具歩行や独立歩行が不能になる重要な因子に、典型的な下肢の拘縮変形がある。従来からこの分野の予防及び治療に副子の使用が試みられてきたが、その着用には賛否両論があって決定的な結論は出ていない。当院でも副子の構造上の問題を含め、ステージ1～4の患児16名に着用させたので報告する。

前段階としてバネ付装具によって登下校をしている患児8名を対象に、熱可塑性プラスチックを用いた良肢位保持用固定副子を夜間着用させて着用時間と疼痛や発赤の部位と程度を約3ヶ月間チェックした結果、殆んど患児が長時間の着用には耐えられず夜間の使用を断念した。次に側方支柱にピアノ線を用い、各関節部を拘縮変形に応じて任意の角度に設定出来かつ保持出来る副子を試作したが、同様に長時間の着用は困難であった。

固定副子では、患児の苦痛が大きい為、次に膝関節、足関節共に可動制をもたせ、両側支柱に熱可塑性プラスチックのオルソレンを用い、足部に固定性をもたせる為に熱硬化性プラスチックのポリエステルを使用した。

膝軸上から2本の固定バーを足部に向けて出し尖端から足背部へ4本の駆血帯用ゴムバンドを張り足背屈と膝伸展の力源とした。膝屈曲時に足関節はより背屈へと矯正されゴムの張力やゴムの足部の接点を変化させることによりテコが変わり矯正力が容易に変化させることが出来る構造である。これを比較的拘縮変形の少ない独立歩行患児6名と装具歩行患児2名に着用させた結果大幅に着用時間が伸び翌朝まで可能になった患児があったが、拘縮変形の無い患児ですら完全に発赤や疼痛を取り除くことは出来ず、年令的にもその苦痛に耐えることがむずかしかった。又、下肢の拘縮変形の有無が副子の適否を決める因子であるかどうかは現在のところ証明出来なかつ

↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

職員の腰痛予防および、患児(者)を安全、安楽に運搬するために、昇降式移動装置(アンビユリフト、二葉)を購入し、今回はその4点について改良し成果を得ることができたので報告する。

改良点

- 1 ユニット昇降作動はハンドル操作のものを油圧シリンダー式とし、又、支柱が高いので低くする。
2. ユニット昇降巾が床上7cm~105cmの高さのものを低くし、ゆれを少なくする。
3. ユニットの床面に降した時、キヤスター部分にユニットが乗らないようにし、乗降を容易にさせる。
4. ユニットに落下防止のため両側に取りはずし可能な柵をつける。